

メコンデルタにおける伝統的農村手工業 および農産加工の展開

杉原たまえ*・Tran Anh Quoc**・廣瀬典史***・鈴木 俊*

(平成19年11月30日受付/平成20年1月18日受理)

要約: メコンデルタの農村では、かつての稲作労働に代わって、伝統的農村手工業および農産加工が過剰労働力を吸収している。その吸収力は稲作の17倍に相当する。伝統的農村手工業や農産加工は、ライスペーパーやビーフンなどの食品加工と、海老取りカゴやゴザ・金属加工などの伝統工芸品加工に分別できる。原材料の調達先からみると、食品加工は資源内給型であり、伝統工芸品加工は資源外給型といえる。また、伝統的農村手工業および農産加工の需要は、洪水や仏教行事に規定される季節性を有している。本研究の調査地ベトナムカントー省O Mon区Thoi Long社(町)では、近年行政主導型で農産加工の組織化が進められている。海老取りカゴ製造農家を組織化した事例から、組織化の有利性と問題点を分析した。

キーワード: 伝統的農村手工業, 農産加工, 生産組織化, 農村過剰労働力の吸収

1. 問題の視座

アジアにおける稲作を基盤とした農村社会では、辻雅男の「アジア稲作共同体の展開理論」に指摘されるような潜在的失業者の滞留と過剰労働力という問題を一概に抱えている¹⁾。辻は、稲作農業の特質を次のように捉えている。第1に、稲作栽培には耕耘、代掻、田植、除草、収穫、脱穀、水管理など多くの集約的管理作業があり、そのために多くの農業労働力が必要になること。第2に、東南アジアでは、稲作の2期作・3期作が可能であり、それだけ農業労働力が吸収できること。第3に、稲作栽培の方法は古くから受け継がれてきている慣習的技術であるため農民はその技術を習得しており、農業労働力として雇用し易いこと。第4に、同地域ではまだそれほど農業機械化が進んでいないため、ほとんどの作業は手労働に頼らざるを得ないこと、等を挙げている。つまり、稲作の単収水準の高さを与件とした労働力吸収力の高さを「アジア稲作共同体メカニズム」と捉え、人口稠密なアジア農村で一定の役割を果たしていたとする。要は、「アジア稲作共同体」は、過剰なまでに労働力を抱え込む一方、農村で市場メカニズムが浸透し始めることによって抱え込みきれずに農村部の失業者が顕在化して都市部へと流出し、都市で新たな問題を発生させることとなる、としている。

ベトナムでは、「農業の工業化と農村の近代化政策 (Cong Nghiep Hoa Nong Nghiep va Hien Dai Hoa Nong Thon)」のもとで、農業の機械化や市場メカニズムが、本研究の調査地 (カントー省O Mon区Thoi Long社) においても急速に浸透・展開している。現在の稲作は収穫作業

を除き、作業の機械化や近代技術の導入によって労働吸収力が低下しており、稲作はもはやかつてのように潜在的失業者を吸収し続ける場ではなくなりつつある。すなわち、他の近隣アジア諸国同様、潜在的失業者が顕在化し都市に労働力が流出し、インフォーマルセクターへの滞留やスラム化などの問題を引き起こす可能性は高いといえる。

しかし、辻が指摘するように、ベトナムでは未だ潜在的失業者が顕在化していない。その理由の一つとして、ベトナム農村に立地する銅細工、竹細工、薬草加工、木工加工、陶器加工などの伝統的農村手工業の存在が、農村で抱え込みきれなくなった潜在的失業者を一気に都市部に流出するのをとどめていることを、辻は北ベトナム、特にハノイ周辺の調査研究から指摘している²⁾。しかしながら、提示された理論を具体化するような、伝統的農村手工業と潜在的失業者の吸収過程について言及されていない。

ベトナムには天然資源 (銅・鉄・石炭等) が豊富に存在し、銅細工や鉄細工などの伝統的手工業が発展している。一方、経済開発が17世紀以降に着手された南部及びメコンデルタは開発後発地帯であるが、農産物・海産物等の生物資源が豊富であり、それらの農産加工品が多い³⁾。辻は、稲作農業と銅細工、竹細工、陶器細工、薬草加工業などの伝統的農村手工業に依存する複合型農村経済構造を提示しているが、われわれは更にライスペーパーやビーフン、漬物などの食品加工を中心とする農産加工も、経営を多角化しつつ労働力を吸収する部門として伝統的農村手工業と合わせて捉える。伝統的な加工技術を掘り起こし、農家の経営多角化を図ることは、稲作農家や土地無し層に対する地域内雇用の創出と農家所得向上に有効な手段である。本論

* 東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科

** 元東京農業大学大学院国際農業開発学専攻

*** 元東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科

では、調査地における伝統的農村手工業・農産加工の特質および近年展開しつつある伝統的農村手工業の組織化の長所と問題点について検討する。

2. Thoi Long における伝統的農村手工業および農産加工の特質

(1) 調査地の概況

2003年から2005年にかけて実施した農村調査地 Thoi Long Xa (Xa とは新合作社 Hợp Tác Xã, 以下 Thoi Long とする) は、世界有数の米作地帯であるメコンデルタのカントー省 O Mon 区に位置する。Thoi Long の総世帯数は 6,290 戸、うち農家世帯数が 75% (4,745 戸) を占めている。総人口は 35,064 人、労働人口が 20,866 人である。総面積の 81% が農地で、そのうちの 71% (2,120 ha) が水田である。経営規模は、0.5~0.3 ha 層の農家が 63.3% を占め、1 ha 以上の農家は 3.9% にすぎない。Thoi Long には、鉄鋼・製造業 3 件、水産加工業 3 件、精米業 8 件、レンガ製造や大工等の会社や生産グループが 6 件存在し、1 件当たりの従業員は 10~50 名と小規模経営である。そのほか運送業 (69 件) や商業 (708 件) 等の零細経営や、日雇労働者 (稲作や果樹の収穫労働および建設業) 311 人が存在する (2004 年 9 月 Thoi Long 役場からの聞き取り)。Thoi Long の約 2 万人の労働人口を吸収するには産業の展開が不十分で、これまで過剰労働力は潜在的失業者として稲単作農家に滞留せざるを得なかった。しかし、稲単作農家は、伝統的農村手工業や農産加工を導入し多角経営化することで農村過剰人口を吸収しはじめている。たとえば、農家 251 戸が竹細工生産組合を結成することによって、1,100 人の労働者が伝統的農村手工業および農産加工に吸収されている。

(2) 伝統的農村手工業および農産加工の特徴

Thoi Long の調査農家 25 戸で行われている伝統的農村手工業および農産加工は、原材料や用途の違いから「加工食品」と「伝統工芸品」に大別できる。調査農家が携わる加工食品は 9 品目 (魚塩付け・ライスペーパー・豆腐・

酒・煎餅・豚ハム・野菜塩漬け・ビーフン・マッシュルーム缶詰)、伝統工芸品は 10 品目 (海老取りカゴ・線香・ゴザ・屋根材・縫製・笠・カマド・ザル・レンガ・金属加工) を数え、全戸が販売を目的に生産をしている。

加工食品および伝統工芸品の原材料は、自給 2 戸、自給・購入 2 戸、購入 21 戸であり、この地域では原材料を個別経営外から調達することが多い (表 1)。原材料の調達先について、自家農業あるいは地域 (Thoi Long) 内にある場合を「資源内給型」、調達先が地域外である場合を「資源外給型」とすると、ビーフンやライスペーパー、酒などの食品加工の原材料は、個別経営内もしくは地域内で発生する碎米や余剰生産物を利用し仲買を介さずに調達している資源内給型が多く、竹やヤシの葉などを大量に用いる伝統工芸品は、資源外給型が多い。例えば海老取りカゴ製造農家は、原材料を省外 (An Giang 省および Nhi Thanh 省) から仲買人を介して入手している。

(3) 伝統的農村手工業および農産加工の季節性

伝統的農村手工業および農産加工は、生産が周年化しているものもあるが、その多くが需要に規定される季節性を有していることが判明した。その要点は次の 2 点である。

第 1 点目が、伝統的農村手工業および農産加工品に対する需要が「洪水」を照準にした季節性がある点である。この地域の基幹的作物である稲作は、3 期作が一般的である。1 期目 (冬春米) は洪水の終わる 11 月に田植えをし、2 期目 (春夏米) は 2・3 月に田植え、5 月に収穫、3 期目 (夏秋米) は 8 月に収穫がほぼ終了する。稲作の農閑期、つまり雨季後半の 8~10 月はメコン河が氾濫し、魚や小海老などの水産物が豊富に獲れるため、この時期に海老取りカゴや魚捕獲用竹ザルの需要が高まる (図 1)。製造農家は、洪水時期直前から 1 日平均 10 時間以上の時間をカゴ製造に当てている。製造が間に合わない場合は近所の農家に部品加工・製造を下請け発注している。

また、この時期は魚の供給量が需要を上回るために魚の価格が暴落する時期でもある。よって、自家採取や市場が

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ライスペーパー	冬春米		春夏米			夏秋米			農閑期		冬春米	
	一般の加工											
魚塩漬け	冬春米		春夏米			夏秋米			農閑期		冬春米	
	一般の加工											
海老取カゴ①	冬春米		春夏米			夏秋米			農閑期		冬春米	
	一般の加工											
海老取カゴ②	冬春米		春夏米			夏秋米			農閑期		冬春米	
	一般の加工											
海老取カゴ③	冬春米		春夏米			夏秋米			農閑期		冬春米	
	一般の加工											
竹ザル	冬春米		春夏米			夏秋米			農閑期		冬春米	
	加工の集中											
レンガ	加工の集中		一般の加工			一般の加工			加工の集中			
線香	加工の集中		一般の加工			一般の加工			加工の集中			
屋根材料	加工の集中		一般の加工			一般の加工			加工の集中			

注) 上段には稲作時期を下段には加工時期を記載 現地調査より作成

図 1 伝統的農村手工業・農産加工の季節性

表 1 伝統的農村手工業・農産加工の原材料および販売先

分類	農家で製造される加工品	加工目的	原材料調達		利益 (単位：万ドン)				製品販売先 地域内・外
			方法	範囲 地域 内外	物財費 A	粗収益 B	農業純生産 B-A	物財費割合 B-A/B	
加工食品	魚塩漬け①	自給・販売	自家 100%	内	0	50	50	100	内
	魚塩漬け②	自給・販売	自家 100%	内	0	50	50	100	内
	酒	販売	購入 50% 自家 50%	内	1,400	3,263	1,863	57	内
	ライスペーパー	販売	購入 50% 自家 50%	内	1,316	2,983	1,667	56	内
	魚・野菜塩漬け	販売	購入 100%	内	7,080	13,880	6,600	49	内
	ライスペーパー	販売	購入 100%	内	4,914	8,024	3,110	39	内・他
	ビーフン	販売	購入 100%	内	8,820	12,600	3,760	30	内
	豚肉ハム	販売	購入 100%	内	14,580	19,800	5,220	26	内
	豆腐と米煎餅	販売	購入 100%	外	12,024	15,814	3,790	24	内
	豆腐	販売	購入 100%	内	21,185	27,885	6,700	24	内
両方	ビーフン・縫製・金細工	販売	購入 100%	内	13,050	21,090	8,040	38	内・他
伝統工芸品	縫製	販売	客の持ち寄り	内	0	2,160	2,160	100	内
	カマド①	販売	購入 100%	内	40	880	840	95	内・外(区内)
	カマド②	販売	購入 100%	内	37	757	720	95	内・外(区内)
	ゴザ	販売	購入 100%	外	250	900	650	72	内
	海老取カゴ	販売	購入 100%	外	1,160	2,410	1,250	52	内
	海老取カゴ	販売	購入 100%	内	1,400	2,870	1,470	51	内・他
	笠	販売	購入 100%	外	584	1,096	548	50	内
	線香	販売	購入 100%	外	2,530	4,330	1,800	42	内
	サル(米貯蓄用)	販売	購入 100%	内	165	265	100	36	内
	海老取カゴ	販売	購入 100%	外	1,960	2,800	840	30	内・他
	レンガ	販売	購入 100%	外	72,000	86,400	14,400	17	内・他
	屋根材料	販売	購入 100%	外	5,400	5,772	372	6	内・他
	屋根材料	販売	購入 100%	外	2,860	2,470	-390	-16	内

内：Thoi Long 域内 外：Thoi Long 域外 他：メコンデルタ内

ら安価で大量購入した魚を塩漬け加工し、魚の供給量が減少する乾季（11～4月頃）を中心に販売している農家が多い。また、雨季の前（3～6月頃）には家屋の修繕をする家庭が多く、屋根材料の需要が高まる。このように、伝統的工芸品に対する需要は、洪水の時期に高まる。

第2点目は、年間行事に関連した伝統的農村手工業および農産加工に対する需要の存在である。テト（旧正月）と仏教の年間祭祀行事には、加工食品（豆腐や豚肉ハムやライスペーパーなど）が用いられる。テト（旧正月）前1ヶ月間はとくに繁忙期となる。また、この地域では仏教信者が多く、年間48日間の「An Chay」と言う仏教行事がある。この日は、普段摂取している動物性の蛋白質をとらずに、豆腐や湯葉などの代替品を摂る。これらは、海老や肉などに外見を模造した食品であり、湯葉製造農家では通常の生産量が1日当たり400枚のところを、これらの行事前には

10倍の4,000枚を生産している。

以上のような、洪水時期や年間行事の需要に規定された加工生産が多いが、いずれも稲作の農閑期の過剰労働力の吸収部門として有効である。次節で、これらの伝統的農村手工業および農産加工の意義について検討する。

(4) 労働時間と過剰労働の吸収

Thoi Longの稲作農家（図2のR）は耕作面積にばらつきがあるものの、VACシステム（V：野菜/果樹、A：養魚、C：畜産の資源循環的生産）農家に比べて農業所得は低く、低所得層に位置している（図2）。また、稲作農家は限られた農地面積で多くの世帯人数を抱え込んでいる（図3）。

そのような多くの世帯員を抱え込んでいる稲作農家では、農産加工に作業時間を多投している（図4）。

表2は、Thoi Longで稲作と伝統的農村手工業に従事する農家の年間労働時間をあわせている。伝統的農村手工

業および農産加工は、稲作よりも平均 17 倍の労働力を吸収しており、辻が指摘するように農村内に滞留している余剰労働力や潜在的失業者を吸収する受け皿として伝統的農村手工業や農産加工は有効である。加えて我々は、個別農家では、稲作労働時間の 44.3% を作業委託や雇用が占めていることに注目する。つまり、個別経営内では稲作労働を作業委託や雇用という形でむしろ省力化し、その分節約された自家労働を収益性の高い伝統的農村手工業や農産加工

に労働配分している点である。

輸出用のマッシュルーム缶詰工場や屋根材生産などのごく一部の会社では雇用労働が確認されたが、Thoi Long における一般的な伝統的手工業は、家族労働で対応する零細な手工業段階のものである。また、家族全員で製造する品目（線香やカマドやピーフンや豆腐）もあるが、女性が担い手として欠かせない。食品加工に関わる総労働時間の 72% を、伝統工芸品生産（縫製やゴザ、笠など）のための総労働時間の 57% を、女性労働が占めている。伝統工芸品や食品加工生産は、農村内の就労機会に恵まれない女性に労働機会を提供するばかりでなく農家所得の向上にもつな

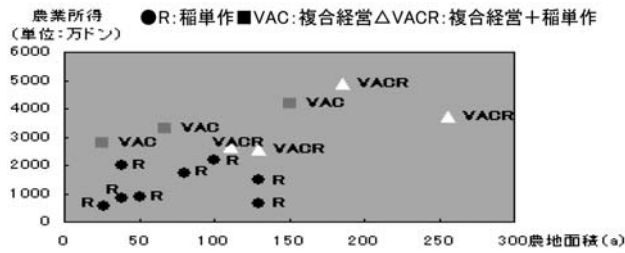


図 2 経営形態別の農地面積と農業所得

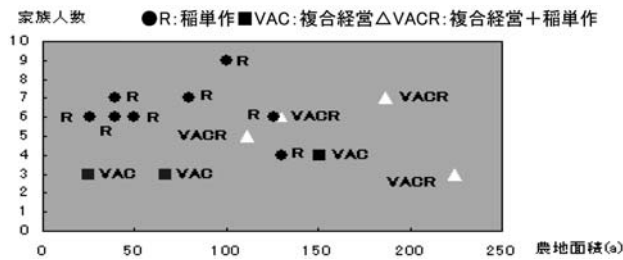


図 3 経営形態別の農地面積と世帯人数

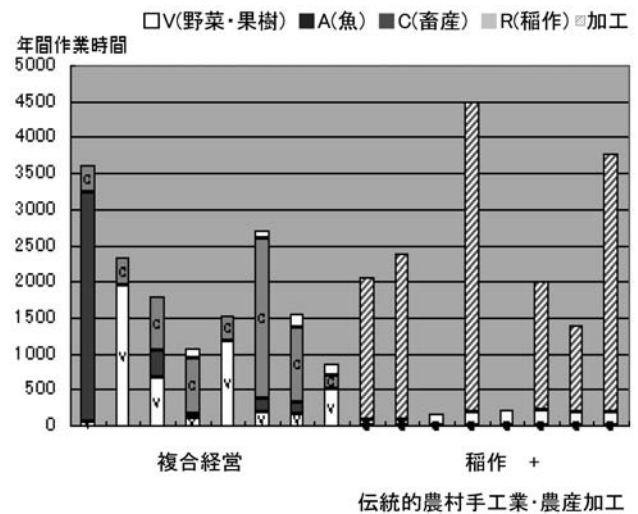


図 4 経営形態別投下労働時間

表 2 伝統的農村手工業・農産加工従事者の年間稲作労働時間

加工農家	世帯人数 (人)	農地面積 (a)	稲作							加工				
			作業人数	年間稲作労働時間 (時間)					稲作労働外部化率 B/C	作業人数 自家労働	年間製造時間		対稲作労働時間 D/C	
				自家労働		雇用・委託		合計時間 A+B=C			1人当たり	合計 (D)		
				1人当たり	合計 (A)	雇用	委託							合計 (B)
ゴザ	6	50	1	320	320	32	264	296	616	48.1	3	4,970	14,910	24.2
海老取りカゴ	8	140	7	129	903	0	609	609	1512	40.3	8	4,260	34,080	22.5
笠	9	39	4	115	460	0	272	272	732	37.2	5	4,280	21,400	29.2
酒	9	130	2	70	140	0	76	76	216	35.2	1	2,160	2,160	10.0
カマド	6	26	6	45	270	0	45	45	315	14.3	2	1,800	3,600	11.4
豆腐・煎餅	6	45	2	107	214	0	198	198	412	48.1	4	2,340	9,360	22.7
豚肉ハム	6	39	3	48	144	0	120	120	264	45.5	3	1,440	4,320	16.4
縫製	5	40	1	160	160	32	118	150	310	48.4	2	2,880	5,760	18.6
海老取りカゴ	7	100	2	234	468	509	414	923	1391	66.4	1	1,440	1,440	1.0
ザル	9	80	2	116	232	0	348	348	580	60.0	6	2,160	12,960	22.3
平均											44.3	平均		17.8

がり、今後、展開次第では女性をエンパワーメントする役割が期待できよう⁴⁾。

(5) 伝統的農村手工業および農産加工の収益性

食品加工では、粗収益に占める原材料の物財費割合は平均 61.8%【魚・野菜塩漬け (51%)、ライスペーパー (53%)、ビーフン (70%)、豚ハム (74%)、豆腐・米煎餅・豆腐 (76%)】であった (表 1)。

一方、伝統的工艺品を製造する家族経営の場合は、粗収益に占める原材料費は平均 52%【ゴザ用のヤシ (28%)、海老取りカゴ用の竹 (各 48%・49%・70%)、笠用のヤシ (50%)、線香の香木 (58%)】に留めている。縫製の場合は、依頼者が布などの原材料を基本的に持ち込み、カマド作りも地域内の泥を採取しており、原材料費は 5%にとどまっている。

しかし、伝統工艺品は作業工程が複雑で製造時間や労働力が多く必要とされる。ゴザ製造などは、1人当たり年間 5,000 時間近い労働時間となっている。1日 10 時間以上の労働時間となる。こうした家族労働報酬を計上した場合、伝統的農村手工業および農産加工の収益性の評価は著しく低いものとなる。しかし、農村内には所得獲得に繋がる雇用機会もなく、家族労働報酬が無報酬であることを前提に過剰労働力が伝統的農村手工業および農産加工に吸収されている。

(6) 資源内給型と資源外給型加工にみる資源循環システム

ここで、稲作農家以外の、VACR システム (V:野菜, A:養魚, C:畜産, R:稲作の資源循環的生産) 農家における伝統的農産加工による資源循環の事例を検討する。

資源内給型の多い食品加工製造では、個別経営内の資源循環が確認できる。図 5 の事例農家は、2002 年から VACR システムと酒製造に着手している。養豚 (1 頭の繁殖母豚で年 2 回の出産、年間約 20 頭を出荷) が基幹部門である。酒製造に着手したことにより、酒製造 (米利用)→養豚 (酒粕利用)→養魚 (豚の糞尿利用) といった一連の資源循環システムが確立した。そのほか、定植後 2 年目でまだ所得を得られないマンゴーの栽培、豚の糞尿を利用したナマズの飼養を行っている。また、処理しきれない豚糞処理対策として、バイオガス化も導入している。

米の市場価格は、良品質米が 3,900 ドン/kg、碎米が 2,400 ドン/kg であり、酒製造には碎米を利用している。

養豚の飼料は、副産物の酒粕が 70% を占め、碎米 20%、総合飼料 10% となっており、生産コストを 18% に抑えることが可能となった。部門別の所得割合については、酒製造 45.7%、養豚 45.1%、養魚 4.9%、燐炭 4.3% である。米の収穫量が一定としたときに、米だけを販売した場合の農業所得は 368 万ドンであったが、この米を利用した「酒製造→酒粕を養豚の飼料→養豚の糞尿を養魚の飼料」の一連の物質循環をもとに多角経営化することによって、農業所得が 4 倍となった。

一般に飼料代がかさむ養豚は、規模の経済が働かない限り、なかなか収益が上がりやすく、ベトナムでは貯蓄的な

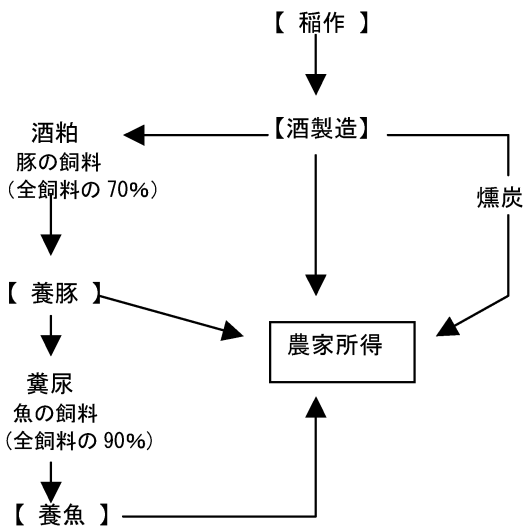


図 5 伝統的農村手工業・農産加工と資源内給型循環

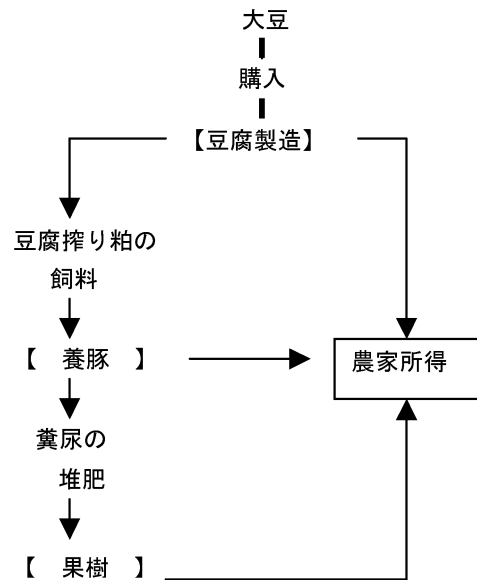


図 6 伝統的農村手工業・農産加工と資源外給型循環

意味合いで飼養されることが多い。この事例農家では、規模が大きくないが食品加工からでる残渣を利用することで、コストを低減している。

とくに食品加工は個別経営内もしくは地域内で資源調達をすることが多く、一部門からの廃棄物を循環させることによって廃棄物が資源として循環し、生産コストの低減をもたらしている。

図 6 の事例農家は、豆腐製造をしつつ、リュウガンとパイアを栽培し、繁殖用の豚 1 頭を含めた合計 20 頭を飼育している。豚の糞尿は果樹園の肥料として利用している。豆腐作り→養豚 (オカラの利用)→果樹園 (豚の糞尿利用) という循環である。この事例農家の場合、大豆は全量購入しているため、売り上げの 76% を原材料が占めている。所得の構成は、豆腐製造 58.2%、養豚 11.5%、果樹 30.3% となっている。

3. 伝統的農村手工業・農産加工の展開上の問題点

調査地においては、伝統的農村手工業および農産加工を個別経営内に導入する際、次のような問題・課題を抱えている。

第1が、資本金である。金額の多寡は加工内容によって異なるものの、通年で安定した資本金の準備が必要である。しかし、調査地における一般の稲単作農家にとっては資金の調達には容易ではない。

第2が、生産技術の普及である。調査地では、伝統的農村手工業および農産加工は、両親から技術を吸収・継承するか「独学」により学ぶしかない。個別農家内で小規模に代々受け継がれているため、地域で特産化する際に必要な加工技術の平準化が達成しにくい。

第3が、原材料の調達に関する問題である。原材料の種類によっては、仲買人⁵⁾による取引ルートが決まっているため、個人での入手が困難な場合もあり、生産中断の恐れがある。

第4が、商品の販路である。伝統工芸品は農家が直接販売するか、仲買人を通じて販売していることが多い。加工食品の場合は仲買を通すことは少なく、食品加工の12戸の農家は、地元の市場に直接出荷する(8戸)か、消費に直売している(4戸)。いずれも小船・バイク等の運送手段をもたない農家が多く、各々近所か自宅近くの市場で販売している。よって、ライスペーパーや豚ハムやビーフンや豆腐などの食品加工の販売範囲は狭く Thoi long 内に留まっていることが多い。輸送手段のある一部の農家は、Thoi Long 以外に O Mon 区内でも販売している。

一方、レンガ、線香、海老取りカゴやカマドなどの伝統工芸品の販売地域の範囲は O Mon 区内だけではなく、メコンデルタ 12 省に広がりを見せている(表1)。販売方法は、市場出荷(1戸)、消費者への直売(6戸)、仲買人への販売(8戸)であった。仲買人への販売は、買い叩きや販売料金未払いなどのトラブルが目立っている。今後の販路として、ホーチミン市のような大都会や海外への輸出への拡大も模索されるであろう。

以上のような問題点への対応策として、次章では組合化による伝統的農村手工業および農産加工の展開状況と今後の組織化の可能性を考察する。

4. 海老取りカゴ製造組合の現状

(1) 組織化の経緯

政府は「農業の工業化と農村の近代化」政策を施行する中で、O Mon 区は 1996 年に農産加工・伝統的手工業の組合化を推進し、Thoi long がそのモデル地域に指定された。メコンデルタでは、Thoi Long の海老取りカゴ製造組合と、O Mon 区 Thoi An の線香製造組合の2つの加工組合が、この政策によって導入・設立されているだけである。以下、前者の海老取りカゴ製造組合について検討する。

O Mon 区の役場は、組合の基本理念として、「基本的に、村内に存在している加工品または同じ加工品を生産する農

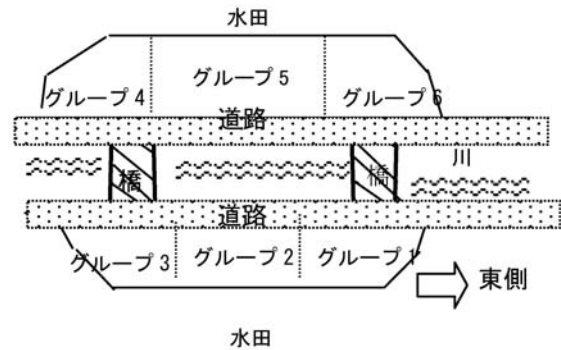


図7 海老取りカゴ製造組合の立地

家が集まっている地域内に加工組合を設立していく」ことをあげている。O Mon 区役場の指導によって、主任(1名)・副主任(2名)・会計責任者・監査(各1名)のもとに、海老取りカゴ製造組合の251戸の組合員は6グループに集団化して、Thoi Long の集落のほぼ中心に川を取り囲むように居住している(図7)。この川(川幅は約7m)は、水田灌漑用として旧合作社によって掘られ、1984年に完成したものである。この川が組合員農家の庭先に位置しており、カゴの原材料や商品の集配・運送の際に利便性が高い。

1997年の設立時から組合員数には変化はない。1戸1組合員制で、会費や組合員資格の規定はない。251戸の組合員のうち50世帯(20%)が水田を所有していない土地無し層である。一方、水田を所有する201世帯のうち、水田面積100a以上の農家は20世帯にすぎない。

この地域の竹細工製造農家の81世帯の平均所有農地面積は約30aであり、零細農家が主体である。81世帯のうち稲作の最大規模農家でも60aにとどまる。一方、組合に所属し海老取りカゴを製造する農家の年間販売額は最大で3,000万ドンで、この辺りの平均農業所得の5倍に相当する。よって、土地無し層や農地面積の極めて小さい組合員にとっては、所得向上の機会を創出していることがわかる。

(2) 組合の構成と運営方法

海老取りカゴ製造組合の組織は、主任を頭に、各役職が配置され、そのもとに251戸の組合員を6つのグループに分けてグループ長が統括している。主任は、組合の総合管理と指導、各機関との交流、原材料の購入や製品販売に関する契約を行う。副主任-1は、1週間に1回全6グループを巡回し、組合員の生産状況を把握し技術指導を行う。副主任-2は、各書類の記録整理など事務手続きや町・区役所との連絡、女性組合員には出産制限などの家政関係の指導も行う。会計責任者は、生産計画、原材料費の管理を行い、毎月1度O Mon 区役場への報告を担当する。監査は、会計からの報告を受け資金の運用を管理する。毎月1回農家から借入金を回収し銀行への返済を行う。組合員が銀行から資金を借りる際にも必ず組合を通す必要があり、返済も監査が責任をもって行うこととなる。各グループ長は、各自、管理グループの組合員の生産状況を把握し、組合員の負債状況の確認や組合員への情報提供等を行う。

毎月25日に組合運営者11人たちが会議を行い、各グループの生産状況や、運営方針などを検討している。組合員全員が集まる機会は3ヶ月に1回あり、組合規則の遵守・徹底、生産情報の提供、組合員の意見収集などが行われる。原材料調達は基本的には個人調達であるが、調達が困難な組合員に対しては組合を通じて提供を行う。また、商品の受注は原則的に組合員が個別に直接受注しているが、組合に対する大量受注があった場合のみ、組合から組合員へ製造が割り当てられる。

(3) 組合運営の利点と課題

組合を設立した利点として、第1に、銀行からの融資が比較的容易に受けられるようになったことである(図8)。Thoi Longで同様に政策的に奨励されているVACシステムの導入には、個別農家が農業銀行から融資を受けるために煩雑な6段階の手順を踏まなければならない。一方、同組合の場合、諸手続きが大幅に簡略化されており借入資格審査免除や低金利という融資条件も付与されている⁶⁾。

また、海老取りカゴの需要は、雨季(特に8~10月の間にメコン河の氾濫で海老と魚の収穫量が増加する時期)に一気に高まる。そのため農家の個別対応では供給が追いつかない状態になる。逆に海老の取りにくい乾期には需要はほとんどない。そのため生産物を直ちに現金化しにくい乾期には生産を中断せざるを得ない場合が多かった。このような需要の季節性は現在でも変わらないが、組合が設立されてからは、組合員が組合を通じて農業銀行から資金の融資を受けやすくなったため、乾季での部品の作り置きが可

能となり、雨季に入ってから組み立てを行なえるようになった。つまり、生産の周年化による生産量の増大が可能となったのである。

組合設立以前は、加工農家は金貸し業者から融資を受ける場合が通常で、平均して20~30%の利息を負っていた。よって農業生産をしても生産物が現金と交換されるやいなや、利息や借金の返済に回収され、資本蓄積に結びつきにくかった。しかし、組合を通じた農業銀行からの利息は3%と低く、さらに組合員であれば土地を担保にする必要がないことから融資が受けやすくなった。融資額は所得に応じて最低300万ドンから最高500万ドンまで、組合を通じて融資を受けることができる。本来は融資を受けることのできない土地無し層なども組合を通して農業銀行から資金の調達が可能となり、土地無し層が貧困層から脱出する契機ともなりえよう。

組合の波及効果は組合員に限定されない。大口の注文が入ると、グループに生産が割り当てられるが、海老取りカゴ製造の仕事は、雇用や部品買い上げという形で組合員以外にも就業の機会を提供し、所得増大を可能にしている。部品製造の場合、雇用による賃金払いと、製品の出来高払いの2種類がある。前者の場合、製品1個当たり3,500ドンで雇用され、部品下請け製造の場合、竹細工100本当たり200ドンで下請けに出した組合員に買い上げられる。1人1日あたり5万本の部品を作ることが可能であり、よって1人1日あたり1万ドンの所得を得ることが可能である。メコンデルタの1ヶ月あたり平均所得は373,200ドン(1日あたり約1200ドン)であり、組合員以外の地域住民の所得増大ももたらしている。

課題としては、組合化の利点が資金面の改善に偏重している点である⁷⁾。少量での製品受注や販売、原材料の調達などは個別に対応しており、生産や販売上のスケールメリットや外部与件の適応などを求めている集団・組織化を、現段階では必ずしも志向していない。とくに個別農家の仲買人とのつながりは密接で、組合を設立したにもかかわらず旧来からの経済的・近代的関係だけでは処理しきれない諸関係が残存している。

5. まとめにかえて

世界的に米価が低迷する中で、伝統的農村手工業および農産加工は農村の過剰労働力吸収に大きな役割を果たしている。その役割とは、一つに現金所得獲得の機会創出である。しかし、それは「自家労賃が無報酬」を前提としたもので収益性という面からは課題がある。

一方、伝統的農村手工業および農産加工の存在は、単に経済合理性のみならず、過剰労働力を吸収する社会的安定装置としても機能している。つまり、伝統的農村手工業および農産加工に従事する労働時間を創出するべく、稲作労働を作業委託や雇用という形で外部化することによって、土地無し層にも就業機会を創出する役割も有しているのである。

今後、このような伝統的農村手工業および農産加工の展開を地域開発の一手段として展開させていくためには、農

【第1段階】

区の農業銀行から融資申請

記入：返済計画・経営方針・返済期間・予算計画・
融資希望額

【第2段階】

組合による確認と区への申請

確認：グループリーダー長→リーダー
届出：組合でまとめて農業銀行へ届ける

【第3段階】

区役所で審議

確認：区の農業担当者→区長→農業銀行

【第4段階】

融資の決定

融資は500万ドン以下 返済は組織の連帯責任

図8 海老取りカゴ製造組織組合員の銀行融資手順

家個々の対応にとどまらない組織化が模索されるべきであろう。日本の場合、集落を基盤とした地縁組織や血縁組織が強固に働き、農村内の関係を結束をタイトなものとし、その上に生産組織が展開している。しかし、南部ベトナムのアブ（邑）とよばれる地縁集団のばあい、それらの関係・結束は緩やかなものでしかない。日本農村のようにイ工のもとで土地所有や利用、労働が規定されているあり方とは異なり、労働力および居住の移動性が高い。北部と同じく家族結合と同属結合はきわめて強いながらも、桜井由躬雄はベトナムの南部農村を次のように特徴付けている。「アブのなかの各個人の活動の裁量度は高く、ほぼ自由に都市の市場と接触できるなど、村外のネットワークに個人として参加できる。」「土地の自由売買の伝統が強く、したがってアブの成員も頻繁に変更される。アブの指導者層も、地主や村落内商人層など中堅裕福なクラスが構成し、社会生活の中にも階層分化が顕著である。」⁸⁾ 合作社のような国家の統制組織の解体後、社会集団としての弱さと市場経済化の進展による階層分化が激しいベトナム農村で、機能的集団を自生的にどう組織していくことは大きな課題である。

注

- 1) 辻 (2003) : pp. 1-5.
- 2) 辻 (2004) : pp. 72-80.
- 3) Duong Hong Dat (1994) : p. 55
- 4) 農家の女性（とくに経営主の妻）は、除草などの管理作業や田植えなど農業経営の補助的な作業に従事し、経営決定権は経営主（世帯主）が掌握している。早朝からの農作業が終われば、自転車や徒歩で運べる農産物を担いで近くの市場で販売し、深夜までカゴや竹細工の製造に従事している。その合間に家事・育児などをこなしていく。たとえ体に変調をきたしても、病院に行く時間を取れない。また、病院に行く交通手段であるバイクを貧困ゆえに所有できず、これを恥じて命を落とす事例もあった。農家女性のエンパワーメントには、生産条件を整えるだけでなく、生活状況や男性との関係性（ジェンダー）など考慮しなければならず、今後の課題としたい。
- 5) 多額の資金でない限り、農家は10～20%の高い利子と煩雑な手続きの必要な銀行から融資を受けることは少ない。農家は、仲買人から農産物販売の際前借をし、返済は仲買人への農産物の販売をもって当てられるために、価格決定の主導権は仲買人が掌握し買い叩かれることも多い。仲買人が市場情報など農家にとって有用な情報をもたらしたりすることもあり、仲買人と農家との関係は経済的従属関係として一様に性格付けられないが、本研究を深化させていく上で今後の課題としたい。

- 6) 組合員の互選によって選出される主任やグループ長は、返済能力がないと判断する農家には、融資を受けさせない。ただし、海老取りカゴ製造の仕事を優先的に割り振るなどの支援は行う。ただし、これらは組織内で契約や内規という形で明文化されているわけでも、また役場や国の管理下にあるわけでもない。
- 7) Thoi Long でカマド製造をする25戸中、7戸が専門的に従事しており、この7戸を対象にO Mon 区役所からカマド製造組合化がすすめられている。しかし組合設立の見通しはついていない。その原因は、川の周辺にある粘土を無料で自ら調達ができるために、原材料調達の資本金を必要としないことが最大の要因となっている。生産技術も高度なものでなく既に習得しており、また、組合の設立が生産者の増大をもたらし供給過剰になるとの懸念があるために、組織化の見込みはない。かれらは、1999年から泥製カマドを製造している。ベトナム戦争時にThoi Long に疎開してきた農民がすでに1988年からコンクリートでカマドを製造していたが、その後、コンクリートは高価なため原料代のかからない泥製のカマドに転換した。カマドの種類は、初穀用（大型1台2万5千ドン）と木材燃料用（小型1台1万ドン）がある。製造から販売までの工程はおおよそ次のとおりである。①1週間に1回船を出して社内の川沿いの集落に泥を貰いに行く。エンジン付の船は、地域の金貸し業者から500万ドンを月利息20%で借りて購入した2年間で完済。この船1台でカマド約20個分の泥が運搬できる。②持ち帰った泥と初穀を捏ねる。初穀は自家調達のほか、村内の精米工場から1パック3,000ドンで購入する。1パックでカマド3つ分の製造量に相当し、年間240パックを購入している。③カマド型に整形する。大型の初燃料用カマドには排気口として鉄製フィルター（3つで5,000ドン）をつける。④カマドを乾燥させる。家の前に並べて3日間天日干しにする。⑤船に乗せて息子が売り歩く。調査農家では、乾季（12～5月）には1ヶ月あたり60台、雨季（6～11月）には1ヶ月あたり30台のカマドを製造し、年間の売り上げが2,000万ドンである。この農家の年間（3期作）の稲作の粗収益は150万ドンであり、原料代のほとんどかからないカマド作りの収益性は高い。
- 8) 桜井 (1999) : P. 21

引用・参考文献

- 桜井由躬雄：社会、『ベトナムの事典』同朋社，1999。
- 長 憲治：市場経済下ベトナムの農業と農村，筑波書房，2005。
- 辻 雅男：ベトナムの伝統的農村手工業の展開と農業・農村近代化の関連性に関する総合的研究，研究成果報告書，2003。
- 辻 雅男：アジアの農業近代化を考える，九州大学出版会，2004。
- 松井重雄編：変貌するメコンデルタ，国際農林水産業研究センター編集，農林統計協会，2001。
- Duong Hong Dat., 1994. Lich Su Phat Trien Nong Nghiep Viet Nam, Nhat Xuat Ban Nong Nghiep.

Issues of Traditional Rural Handicraft Industry and Processing Agricultural Products in the Mekong Delta Region

By

Tamae SUGIHARA*, Tran Anh QUOC**, Norifumi HIROSE*** and Shun SUZUKI*

(Received December 30, 2007/Accepted January 18, 2008)

Summary : We performed this analysis using an agricultural survey of the Kanto Province in Vietnam. Our assessment is as follows ;

1. The traditional rural handicraft industries and processing of agricultural products have the capability to absorb the rural overpopulation, seventeen times more effectively than rice farming would.

2. The traditional rural handicraft industries and processing agricultural products can be classified for food processing ; for example rice paper and traditional craft goods such as the shrimp catching basket. Farmers make the food processing craft goods in the traditional manner by using local materials. However, they still obtain resources from outside the village.

3. There is much demand for traditional rural handicraft industries and processing agricultural products depending on the season, flooding, and the Buddhist calendar.

4. Local government is proceeding to organize the processing of agricultural products and give farmers an advantage. The current problem lies in sales and the spread of manufacturing knowledge.

Key words : The Traditional Rural Handicraft Industry, Processing agricultural products, Organization of the processing of agricultural products framers, Absorbing the rural overpopulation

* Department of International Agricultural Development, Faculty of International Agriculture and Food Studies, Tokyo University of Agriculture

** Former Department of International Agricultural Development ,Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture

*** Former Department of International Agricultural Development, Faculty of International Agriculture and Food Studies, Tokyo University of Agriculture